KOBE健康情報局 vol.20
ヘルスケア市民サポーター
KBIC
KOBE Biomedical Innovation Cluster
発行 2021年9月

Dementia Friendly City、神戸
～認知症の人にやさしいまち、神戸～

神戸市認知症対策監、
神戸学院大学総合リハビリテーション学部
特命教授、神戸大学名誉教授
前田 潔（まえだ きよし）

1971　神戸大学医学部卒業、内科研修ののち神戸大精神神経科にて研修
1976　神戸大学大学院医学研究科修了、医学博士
1976　米国シカゴ大学Michael Reese Medical Center Visiting Fellow
1978　神戸大学医学部附属病院助手、精神科神経科
1983　同講師
1986　米国国立衛生研究所(NIH)Visiting Scientist
1993　兵庫県立高齢者脳機能研究センター副病院長
1998　神戸大学教授、医学部精神神経科学講座
2006　神戸大学医学部附属病院副病院長・病院長補佐
2010　神戸大学名誉教授、神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授
2013　神戸市認知症対策監
2017　神戸学院大学寄附講座特命教授、現在に至る。
日本精神神経学会専門医・指導医、日本神経学会専門医、
日本認知症学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医

私は認知症を専門とする精神科医です。平成25年から神戸市認知症対策監に就任し、神戸市が実施する認知症政策に関わってきました。このころから神戸市では活発な認知症施策が実施されてきました。私に、神戸市から認知症施策を手伝うように声がかかったのは、神戸市が認知症施策に力を入れようとしたためと思われます。神戸市の認知症施策の一部は認知症「神戸モデル」として全国的にも知られるようになってきました。ここでは神戸市で実施されている認知症をめぐる事業を紹介したいと思います。

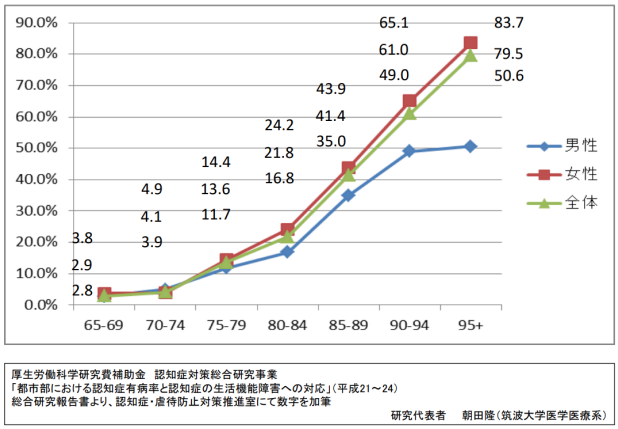
1）認知症パンデミック

わが国では前世紀の終わりごろから人口の高齢化が顕著になってきました。わが国の高齢者は2020年推計値で3617万人、全人口の28.7%ですが、65～74歳が1746万人で、75歳以上が1871万人（85歳以上は618万人）です。75歳以上の後期高齢者が、65～74歳の前期高齢者の数を上回ったのは2018年と推測されています。高齢者が増加しますと認知症高齢者が増えてきます。認知症の最大のリスク要因は加齢です。65歳以上高齢者の15～20%が認知症と考えられています。全国で540～730万人になります。認知症患者数は年代では70歳代後半から80歳代にピークがあります。高齢者といっても75歳未満では認知症の有病率は高くありません。85歳以上の高齢者における認知症有病率は40～60%と報告されています。ふたりにひと

りが認知症ということになります（図1）。

新型コロナウイルス感染症が流行しています。感染症の流行が広い範囲で激しくなった場合、パンデミック（感染爆発）と言います。人口が高齢化し、心不全の患者が増加し、循環器の領域では数年前から心不全パンデミックという言葉が使われるようになっていました。わが国の認知症患者数は心不全患者の10倍です（図2）。私は、心不全パンデミックという言葉があるのなら認知症パンデミックという言葉もあってよいのではないかと思い、2年程前からわが国は今、認知症パンデミックである、と言ってきました。

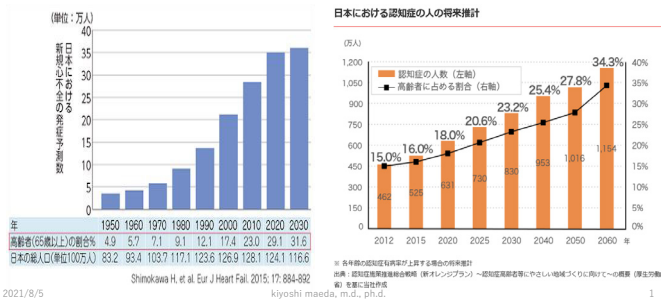
年齢階級別の認知症有病率



（図1）

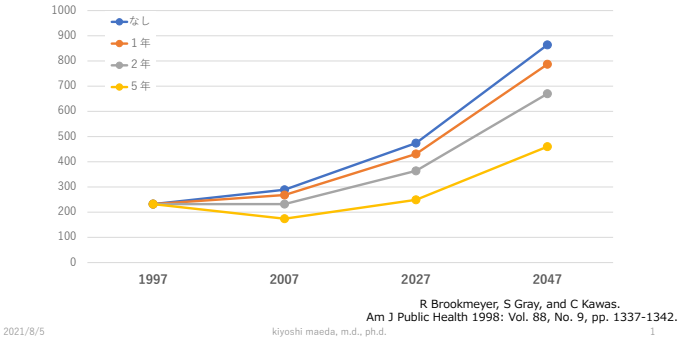
図3は米国で1998年に発表された論文からの引用ですが、認知症者の数はこのまま何もしなければ30年後には1997年の2倍、50年後には3.5倍になるが、発症を5年遅らせると30年後には認知症者の数は1997年とほぼ同じ、50年後でも2倍程度にしかならないとされています（図3）。認知症の治療は困難なことが多いですが、治癒に至らなくても発症を遅らせることで認知症者の数を抑えることができるということです。

心不全パンデミック vs 認知症パンデミック



（図2）

認知症、発症を遅らせると…



（図3）

2）認知症初期集中支援チーム

そんななか、わが国で始まったのが認知症初期集中支援推進事業です。この事業によって支援を必要とする多くの孤立した認知症高齢者に支援が届けられるようになりました。本事業の特徴は看護師、介護士、社会福祉士など多職種が協働して、認知症高齢者の自宅を訪問することにより医療や介護サービスを利用できるよう支援しようとするものです。このように高齢者の自宅を訪問してどのような支援が必要か、どのような支援の提供が可能であるかを考えるもので、この多職種による自宅訪問に本事業の意義があります。認知症のために適切な支援が得られず、孤立している高齢者に対し、これら多職種が自宅を訪問して、医療機関の受診の手はずを整え、介護認定の申請を行い、介護サービスを受けられるように援助します。既存の行政サービスの網からこぼれ落ちた高齢者たちが対象の、今までになかった事業です。

神戸市では本事業がモデル事業として始められた平成25年から実施しています。その際に神戸市保健福祉局（現：神戸市福祉局）から私に「このモデル事業の実施を手伝ってほしい」と声掛けがあって、お手伝い

を始めました。この事業に加わってから、地域にはたくさんの、孤立し支援が得られないままにゴミマンションや、電気代を滞納して電気を停められ真っ暗闇の中で生活している認知症高齢者がいることに衝撃を受けました。また、訪問チームがどのような支援を行うかを検討するチーム員会議の中で、経験が豊富で、様々な知識とスキルを持った様々な専門職からなるチーム員の中から、魔法を使うように支援のアイデアが出てくるのです。狭い医療のなかでしか生きてこなかった私はここでも衝撃を受けることになりました。

この初期集中支援チームはいまでは全国の自治体で実施されています。神戸市でも年間100～200件のケースにチーム員が関わっています。チーム員は高齢者の自宅訪問のほかに、1件につき平均10回、その対象となる認知症高齢者が関係する医療機関や役所、警察を訪問し、医療機関受診に同行しています。今ではあんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）にもよく知られ、認知症で困ったケースがあればあんしんすこやか（同）センターからチームに相談されるようになっています。

3) 認知症「神戸モデル」

神戸市では先の認知症初期集中支援推進事業に続いて、2017年に認知症対策に関する有識者の会議を立ち上げ、そこでの議論の結果「認知症の人にやさしいまちづくり」条例が制定されました。これは政令市としては初めてのことでした。この条例では認知症の人が尊厳をもって安心して暮らせる地域を実現するとうたわれています。

さらに認知症の人にやさしいまちづくり推進委員会が組織され具体的な政策が検討され、3つの部会（診断部会、事故救済部会、初期集中支援関連部会）が設置されました。これらは認知症「神戸モデル」と呼ばれています。これについては次ページにおいて解説がなされていますので簡単に説明いたします。平成31年に認知症診断助成制度と事故救済制度が開始されました。それまでいくつかの自治体が同様の制度を制定していましたが、それほど多くの住民から利用されることはありませんでした。神戸市が実施したこの二つの制度は多くの市民から利用されています。この神戸モデルが成功した理由はいくつか考えられます。制度設計そのものが他の自治体のものより利用しやすいものであったこと、実施に当たって医師会等関係機関との調整がうまくなされたことなどです。

認知症の問題はまだ50年は続くと考えられています。誰もが認知症になるリスクを持っています。認知症高齢者になっても尊厳を保って安心して暮らせる社会とは、すべての高齢者が、また一人一人の市民すべてが持つ障がいや能力に関係なく尊重される社会ということができます。

図1：年齢階級別の認知症有病率
図2：心不全パンデミック vs 認知症パンデミック。わが国における認知症患者数と心不全発生率。
図3：認知症の発症を0～5年遅らせた場合の米国における将来の認知症患者数の変化。

認知症神戸モデルとは？

認知症の方やそのご家族が安心・安全に暮らしていけるよう、認知症の早期受診を支援する「診断助成制度」と、認知症の方が外出時などで事故に遭われた場合に救済する「事故救済制度」を組み合わせて実施する、全国初の制度です。

認知症神戸モデル　4つのポイント

①65歳以上は、自己負担ゼロで医療機関における2段階方式の認知症診断が受信可能

②認知症と診断された方は、市が賠償責任保険（最高2億円）に加入するなど手厚い支援を提供

③神戸市民が認知症の方が起こした事故に遭われた場合、見舞金（最高3千万円）を支給

④これらの費用負担を将来世代へと先送りすることなく、市民の広いご負担で賄う仕組み

資料提供：神戸市福祉局

9月21日は世界アルツハイマーデー！

世界アルツハイマーデー／世界アルツハイマー月間とは?

1994年「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓蒙を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、様々な取り組みを行っています。

わが国でも公益社団法人「認知症の人と家族の会」がポスターやリーフレットを作成し、認知症への理解を呼びかけるなどの活動を行っています。

厚生労働省　世界アルツハイマーデー　検索

出典：厚生労働省ホームページ

KOBEライトアップDAYにおけるオレンジライトアップ

神戸市では、「認知症の人にやさしいまち神戸」に向けた取組みを進めており、毎年「世界アルツハイマーデー」の啓発活動として、市内の施設やモニュメントを認知症支援の色であるオレンジ色にライトアップする取組みを行っています。

観覧車（ハーバーランド）

かもめりあ（中突堤）

BE KOBE（ポーアイしおさい公園）

KBIC
KOBE Biomedical Innovation Cluster

第9回 ヘルスケア健康セミナー

神戸ヘルス・ラボ（ヘルスケアサービス開発支援事業）第4回成果報告

神戸ヘルス・ラボ ホームページ
https://www.fbri-kobe.org/cluster/healthcare/

神戸医療産業都市 一般公開 ホームページ
https://www.fbri-kobe.org/kbic/ippankoukai/

オンライン開催

アンケート特典あり！
アンケートに答えるとすてきなプレゼントが当たるチャンス！

歩いて 浸かって 深呼吸！

コロナに負けない健康増進

免疫力UP

2021年10月30日（土）～

〈神戸ヘルス・ラボ〉〈一般公開〉両ホームページ同時公開・配信

配信予定

講演①「神戸みなと温泉蓮における心身改善の効果が期待できる宿泊プログラムとは」
講演②「ウォーキングの指導効果を持続させるには」
関西国際大学 現代社会学部観光学科 教授 西村 典芳 氏

西村 典芳 氏

講演③「呼吸筋力って知っていますか？
ー呼吸の役割を理解してコロナに打ち勝とう！ー」
兵庫医療大学 リハビリテーション学部長 玉木 彰 氏

玉木 彰 氏

お問合せ先

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
クラスター推進センター 神戸ヘルス・ラボ事務局
電話:078-306-0719 メール:healthcare@fbri.org

主催：公益財団法人神戸医療産業都市推進機構、神戸市

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 クラスター推進センター
神戸ヘルス・ラボ事務局

〒650-0047 神戸市中央区港島南町１丁目５番２号 神戸キメックセンタービル７Ｆ
電話：078-306-0719　E-mail: healthcare@fbri.org
https://www.fbri-kobe.org/cluster/healthcare/